その一部を以下に引用する。

寺田は津浪の被害についても調査し、警鐘を鳴らしている。
「東北日本の太平洋岸に津浪が襲来して沿岸の小都市村落を薙ぎ倒し、多数の人命と多額の財物を奪い去った。」1933年の昭和三陸大津波をみて、寺田が書き残した「津浪と人間」という随筆の書き出しだ。
そこで寺田は高台に一度移住しながらも、不便だからと低地に戻った人々を批判している。「鉄砲の音に驚いて立った海猫がいつの間にかまた寄ってくるのと区別はない。」と痛烈だ。

小生が気になったのは、「寺田は高台に一度移住しながらも、不便だからと低地に戻った人々を批判している」（下線は筆者）のくだりである。確かにこの部分は「津浪と人間」の冒頭の一文であるが、寺田がこの随筆で主張したかったのは、「災害を未然に防ぐことが出来て居てもよさそうに思はれる」としながらも「それが実際は中々そうならないといふのが此の人間界の人間的自然現象である」と言ったうえで、「日本国民の此等災害に関する科学的知識の水準をずっと高めることが出来れば、其時にはじめて天災の予防が可能になるであろう」ということである。つまり、決して「批判」したものではなく、人間はそういうものであると認めたうえで、教育の重要性を説いたものであろう。寺田の人間を見る目の優しさが感じられる文章だと思う。

小生は住所・氏名と友の会会員であることを明記のうえ、この点についての見解を日本経済新聞仙台支局あてに文書で尋ねた。教育の重要性もそうだが、マスコミの重要性も看過できないのではないかとも付記した。それもあってであろうか、本日に至るまで回答は得られていない。

（宮城県仙台市青葉区）

事務局より

◆平成24年度寺田寅彦記念館友の会総会開催

平成24年４月29日（日）午後１時から平成24年度総会と記念講演会を開催し、24年度の事業計画と予算等が審議され、新たなスタートをきることができました。

◆松下貞夫幹事の訃報

長く本会会員で、幹事をしていただいておりました松下貞夫様が病気療養中のところ

平成24年３月12日に逝去されました。絶えず、友の会の発展を願ってご尽力をなされ、現在の「槲」の横書き原稿を提案されるとともに、「コーヒーといちご」を表現されたタイトルも考案していただきました。ここに謹んでお知らせするとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

なお、「槲」の今回号に既にいただいておりました原稿を追悼の気持ちを込めまして掲載させていただきました。

◆ 寄　贈

小松美沙子様より下記の文献等の寄贈を受けましたので紹介します。

小松美沙子様は、「寺田寅彦」全集を発行した岩波書店の創設者岩波茂雄氏の娘小林小百合様の長女です。父は、小林勇氏で岩波書店の創業に関わり、著書に「回想の寺田寅彦」等があります。

① 漱石遺墨集　（岩波書店　昭和10年）

② ＣＤ－Ｒ　雑誌「鐵塔」全13冊（鐵塔書院刊　昭和７～８年）
（制作　2009年　発行者　小松美沙子）

③ 楽譜　ケーベル作曲「９つの歌」（音楽之友社1992年　小松美沙子編）

④ ＣＤ　ケーベル作曲「９つの歌」（音楽之友社　1998年）
（ソプラノ　古嵜靖子　ピアノ　小松美沙子）

⑤ 図録　「露伴・茂吉・寅彦と小林勇
「一本の道　ある出版人の軌跡」展　2006年神奈川県立近代文学館

⑥ 図録　「露伴・茂吉・寅彦と小林勇
「作家・学者とある出版人の歩み」展　2010年須坂市立博物館

大森　一彦　様

大森　一彦　書誌選書　―寺田寅彦・田丸卓郎・小宮豊隆―大森一彦編著　2012

中谷宇吉郎　雪の科学館友の会　代表　口野　哲夫　様

中谷宇吉郎没後50周年記念出版　「幻の航空新書１」着　氷　中谷宇吉郎［著］

中谷宇吉郎　雪の科学館　館長　神田　健三　様

没後50年　中谷宇吉郎をめぐる出来事